

## <調査結果>

### 児童養護施設職員を対象とした「お金の教育」に関するアンケート調査

2019年10月に、児童養護施設を対象とした、「お金の教育」「金融リテラシー」に関するアンケート調査を実施し、以下の通りまとめました。

※本アンケートは、NPO 法人ブリッジ・フォー・スマイルにご協力いただき、回付・回収いたしました。

調査期間：	2019年10月8日～18日
調査対象：	全国の児童養護施設の職員
調査方法：	インターネット上でのアンケート調査
回答数：	42人 ※児童養護施設は全国に約400施設

#### TOPICS

##### 児童の自立に関する状況

- 回答した全施設職員が、「児童の自立に向けて、金銭管理やお金のトラブルが課題」だと感じている。
- 多くの回答者が、児童の自立を阻害する複数のトラブルを見聞している。9割が、「金銭感覚や収支管理に問題があり、生活が立ち行かなくなる」退所者を見聞したことがある。

##### お金の教育に関する意識

- 児童養護施設では、日常において何らかの「お金の教育」を実施している。  
一方、「陥りやすいお金のトラブルやその解決方法について、伝えている」は半数に留まっている。
- 7割以上が「施設職員向けのお金のしつけに関する講座や冊子」、  
6割以上が「外部講師による児童向けの講座やワークショップ」を取り入れたいと考えている。

##### 教育内容に関する意識

- 特に「金銭管理、貯蓄の方法」「お金のトラブル、危険」を児童に学ばせるべきと考えられている。
- 施設職員は、「退所前にすべきアドバイス内容」を筆頭に、様々な情報を得たいと考えている。
- 一方、9割の回答者により、「金銭教育以前の基本的な生活習慣や心理的な課題を抱えている」ことがお金の問題としての難しさとして挙げられている。

#### 【参考】

東京スター銀行は、「子どもの貧困」の解決に取り組む中で、「金融リテラシー」が貧困の世代間連鎖を防ぐ重要な糸口になると仮説を立て、子ども・若者への金融教育を実施してきました。今回の調査では、多くの児童養護施設において、お金に関する課題意識があり、様々な取り組みがなされているものの、お金の教育の難しさがあることが分かりました。

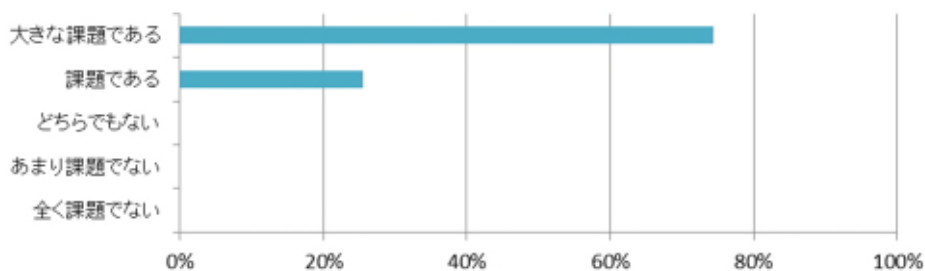
東京スター銀行は、45,000人にのぼる社会的養護の子どもたちが適切に、お金の知識や行動を身に付け、自立することが出来るよう、これからも金融教育の推進と啓発を行ってまいります。

## 調査結果概要

### 児童の自立に関する状況

#### 回答した全施設職員が、「児童の自立に向けて、金銭管理やお金のトラブルが課題」だと感じている

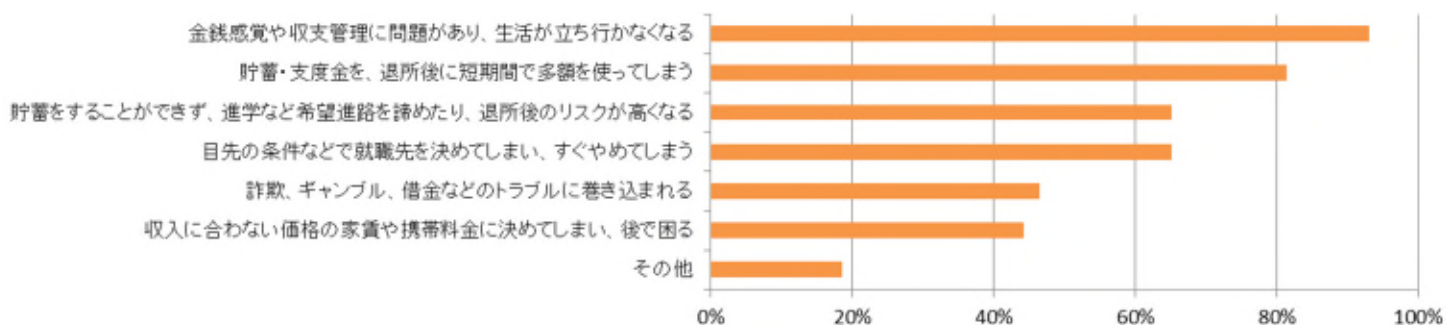
質問：児童の自立に向けて、金銭管理や金銭トラブルなど「お金の問題」は課題だと思いますか？



#### 多くの回答者が、児童の自立を阻害する複数のトラブルを見聞きしている。

#### 9割が「金銭感覚や収支管理に問題があり、生活が立ち行かなくなる」退所児童を、見聞きしたことがある。

質問：児童の自立において、見聞きしたことがあるものをお答えください。



### トラブルに関する自由回答抜粋

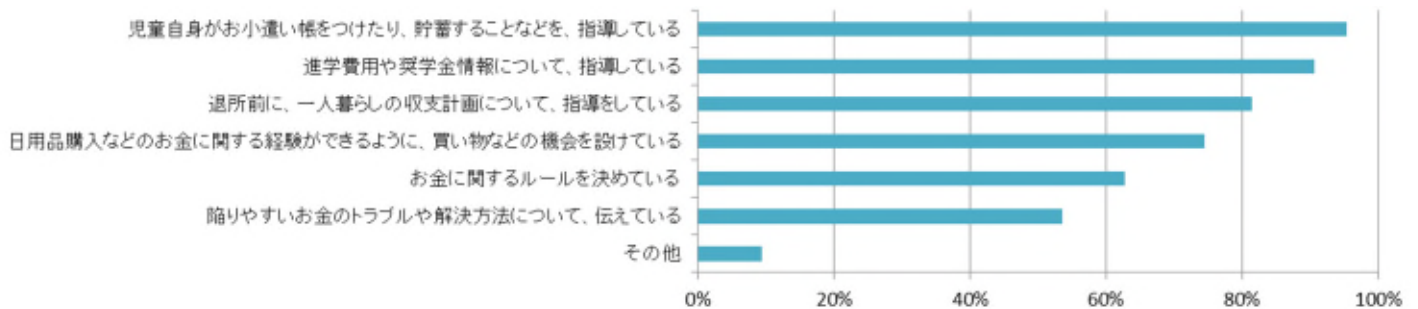
- 入所中に身丈に合った金銭感覚が見につかない。そのため、退所後にも同じ感覚で使い込んでしまうところがある。
- 自分の意志で収支管理をする姿勢が薄く、知識に疎い。多額過ぎる、先の事過ぎる、といったことに対し、先を見通して今から計画する、今の収支を意識的に計画し、それに則って生活するための力がなく、大人の介入が必要になる。
- 就職したと同時に保護者からのアクションがありその結果金銭を搾取されることがある。
- 反社会的な活動をする友人・知人との関係に引き込まれてしまう。
- 急に一人暮らしになり、寂しい時に優しくされるとはまってしまう。そして、周りに相談する相手もおらず、相談する場所も知らないため、被害に遭ってしまった。
- 就職先での対人関係の問題から会社を辞め、アパートに長期間引きこもるが、家賃滞納と生活が枯渇し、施設がサポートせざるを得ない状況になる。
- 施設の生活において守られてきた環境から、全てを自分でやっていかななくてはいけない（子どもは期待して旅立つが）ことは想像以上に困難。
- 20歳前後では、社会で生きていくことに慣れることなど目の前のことに精一杯で、金銭管理含め先の見通しについての情報も乏しく、精神的にもぎりぎりな状況だと思います。
- 金銭感覚が十分に育たないまま大きな金額を持ってしまったことと、施設内の生活で制限されていたものが卒園で全て取り払われた解放感から、浪費をしてしまったのではないかと。
- 高校時代の小遣いとは桁が違う額を一気に受け取ることで金銭感覚がマヒし、使ってしまふ。退所前にお金の使い方、貯金の大切さをもっと伝える必要があると思う。友人を繋ぎ留めておくためにおごったりしてしまうことにも問題がある。
- 施設を出た後に、仕事や家の管理をすべて自分でやらなくてははいけないこと。
- 施設生活においては、月々の小遣いを使い果たしても衣食住は常に保障されていた生活であったため、「本当の意味でお金に困った」経験がなく、生活に困窮するという状況も想像でしかできない。

## お金の教育に関する意識

児童養護施設では、日常において何らかの「お金の教育」を実施している。

一方、「陥りやすいお金のトラブルやその解決方法について、伝えている」は半数に留まっている。

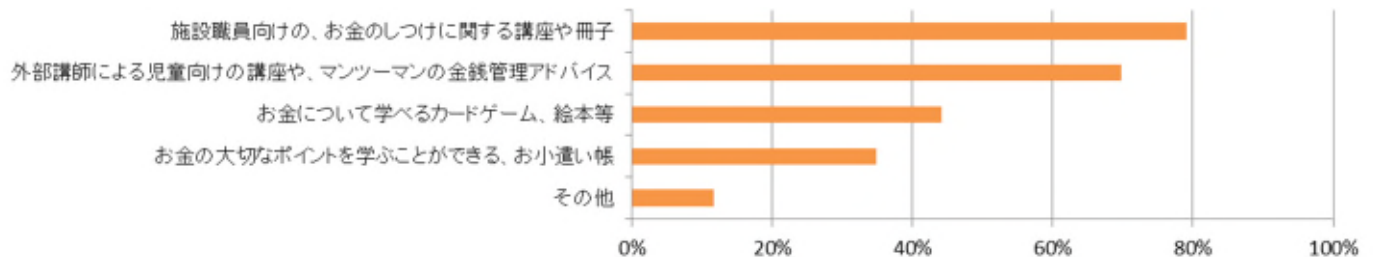
質問：この1年間で、お金の教育として実施したものを教えてください。



7割以上が「施設職員向けのお金のしつけに関する講座や冊子」、

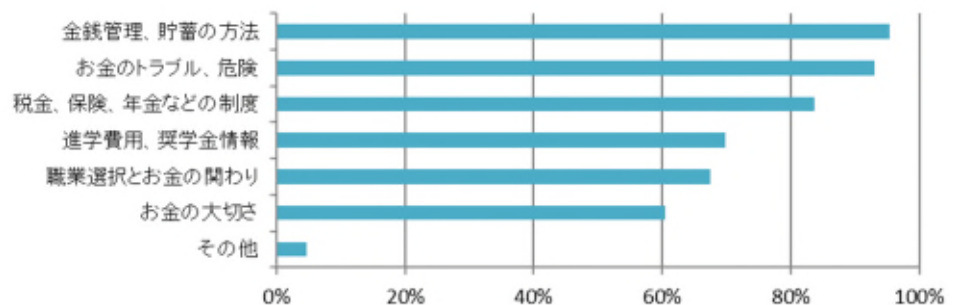
6割以上が「外部講師による児童向けの講座やワークショップ」を取り入れたいと考えている。

質問：どのような「お金の教育」を取り入れたいですか？



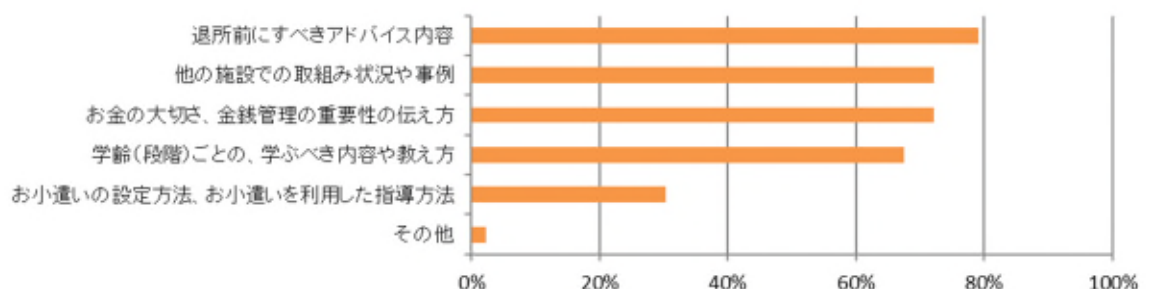
自立に向けて、特に「金銭管理、貯蓄」「トラブル、危険」を児童に学ばせるべきと考えられている。

質問：自立に向けて、児童に学ばせるべき内容はどれですか？



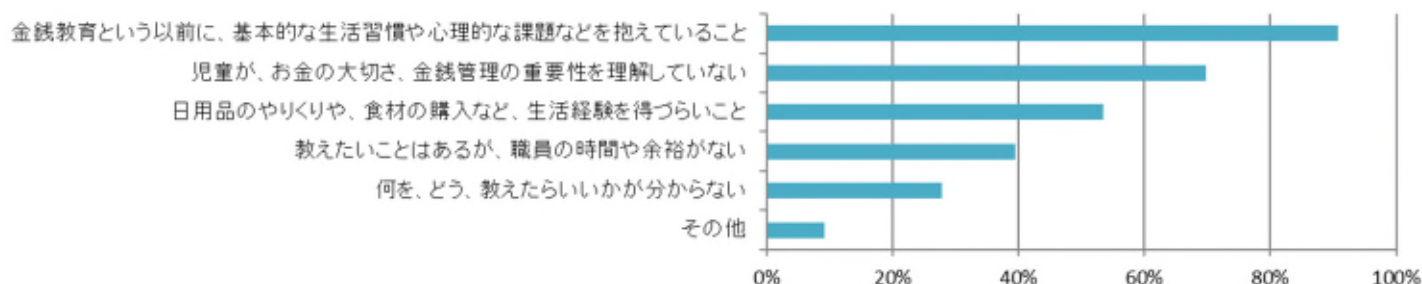
施設職員は、「退所前にすべきアドバイス内容」を筆頭に、お金の教育の様々な情報を得たいと考えている。

質問：お金の教育について、知りたいことがあれば、ご記入ください。



一方、9割の回答者により、「金銭教育以前の基本的な生活習慣や心理的な課題を抱えている」ことがお金の問題としての難しさとして挙げられている。

質問：お金に関するしつけについて、難しいと感じるものをおしえてください。



### どのようなお金の教育を取り入れたいですか？（自由回答抜粋）

- 高校生対象のファイナンシャルアドバイザーによる、年金、健康保険、雇用保険、貯金とお金の使い方についての勉強会の開催。
- 自立に近い形（大きいお金を持ち、大きいお金を使う）で自立前に1～2ヶ月ほど（出来れば定期的に）やってみると良いと思うが、実際は困難（対応職員がいないことや高額のお金を持たせることへの不安）。
- 自立した際に支払うべき金額（食費、光熱費、通信費等々）を実際の生活に照らし合わせて子どもに支払わせる。施設で生活する子ども達はお金の流れを知る機会が少ないので、できる限り見える形で子どもにやらせる事が出来るのが理想。
- お金の問題は人との信頼関係と強く結びついていること。
- 金銭管理は心理面的な問題もあるかと思しますので、そういう面からもお話ししていただいたり、職員にむけても研修があれば良いと思います。
- 保険や財形貯蓄など身近な物と、興味のある児童がいれば、金融について学ぶ機会が提供されれば選択肢が増える気がします。

### お金の教育に関する状況、知りたいこと、要望、困っていることなど（自由回答抜粋）

- 中学生に対する金銭管理やトラブルの話はできるが、もっと幼い時期に(幼児、小学校低学年)からお金について学べるような、簡単で分かりやすい教材があれば、と思います。そのころから学んでいないと、大きくなってから学ぶための素地が足りない。
- お金がないと、どうなるのか？想像が出来ない。少し働けば（バイトも含めて）普通に生きていけると思っている。お金がなくても、住むところがなくても、周りが何とかしてくれると思っている。
- 一定の貯金(50万円以上)がある高校生が月2万円～3万円携帯につぎ込み、その調子で使っていたら卒業の頃にはなくなってしまうことを伝えても「いや俺の金だから。俺の勝手でしょ」というスタンスである。将来よりも今楽しいことが重要である児童に何をどう伝えていけばいいか。
- オレオレ詐欺のみならず、プライベートや仕事上のお金のトラブルの実例をファイナンシャルアドバイザーから子どもたちに示して欲しい。
- 退所後の家族間での金銭トラブルに関して施設がどこまで介入すべきか。
- 入所児には生活保護を受けている家庭で育っている子が多く、施設入所した後に職員の働く姿を見ても一般的な就労のイメージとは違うため、就職・就労に関するイメージや意識を持ちにくいことに課題を感じている。また、児童養護施設卒園後に就労が続かずに生活保護を受給する子もいるため、将来継続した就労を行うためには児童養護施設入所時に、どのような支援ができるのか知りたい。
- 地方にある施設です。都内で行われている児童向けプログラムなどを容易に利用できないことがあります（費用面が大きな課題）。お金の教育だけを単独で行うのではなく、今のくらしとこれからのくらしをリンクさせた教育ができると理解しやすいのかな、と思っています。ただ、そのための時間や職員の余裕がないのも現実です。くらしのなかで「勉強している」と肩肘張らずに学んでいけるプログラムがあると良いと思っています。
- 奨学金や税金、補助金などの制度が変わっていくことに、職員の学習が追い付いていない。学習会などを活用しながら、子どもに不利益にならないように進めていくことの難しさ。

## 参考

東京スター銀行では、社会的養護における、児童・若者への金融教育（お金のスタートレーニング）に加え、施設職員・里親など養育者に対する「お金の教育」の講演会なども行っています。

お役立ていただける情報を随時、東京スター銀行の金融教育サイトに掲載しています。

<http://www.tokyo-starbank.co.jp/profile/about/csr/kintore/index.html>



検索「東京スター 金トレ」

### アンケート結果を踏まえた今後の取組み

今回のアンケート結果を踏まえて、特にニーズのある事項について取り組んでいきます。

- ① 子ども向けの講座（小学生、中高生向け）
- ② 施設職員向けの「お金の教育」に関する講座や冊子作成
- ③ 子ども達の自立前に渡すことができる、お金に関するガイド作成
- ④ 児童養護施設での、「お金の教育」に関する先進的な取り組みや、傾向を調査

### <参考> 児童養護施設向けの「お金の教育」リスト

施設での「お金に関する教育」として出来ることを、リストにしました。日常での指導において、お役立てください。

お よ ろ づ 指 か 導 い に	<ul style="list-style-type: none"><li>□ おこづかい帳をつけることを、施設でのルールとしている</li><li>□ おこづかい帳をつけ、職員がチェックや指導をしている</li><li>□ おこづかいの使い方について、計画や振り返りをする時間・ルールを設けている</li></ul>
貯 蓄 の 指 導	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 児童自身で貯蓄することを、施設のルールとしている</li><li>□ 児童の貯蓄目標金額を設定して、指導している</li><li>□ 児童に貯蓄の方法について指導している (先取り貯金や、適正な貯蓄額、貯金箱を使うことなど)</li></ul>
日 常 で の 指 導	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 児童が、おこづかい以外にも日用品購入などのお金に関する経験ができるように、機会を設けている</li><li>□ スマホを使う児童に対して、ルールなどを決めている (課金や使用時間の制限など)</li><li>□ お金の貸し借りをしない、などお金に関するルールを決めている</li></ul>
つ 進 い 学 て 費 指 用 導 に	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 児童全員に対して、利用できる奨学金などの情報が行きわたるようにしている</li><li>□ 進学希望者に対して、一人ずつ進学費用に必要な費用を計算し、貯蓄計画を立てている</li></ul>
自 立 に 向 け て	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 陥りやすいお金のトラブルや、解決方法などについて、児童に伝えている</li><li>□ 退所前に、一人暮らしなどでの収支について、指導をしている (収支計画を立てるなど)</li><li>□ 退所時に、貯蓄・支度金・寄付金などを渡す際に、計画的に使うよう指導している</li></ul>